

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分  
 【発行日】令和 2 年 7 月 9 日 (2020.7.9)

【公開番号】特開 2019-83588 (P2019-83588A)  
 【公開日】令和 1 年 5 月 30 日 (2019.5.30)  
 【年通号数】公開・登録公報 2019-020  
 【出願番号】特願 2019-40516 (P2019-40516)  
 【国際特許分類】

H 0 4 W 56/00 (2009.01)

H 0 4 W 92/18 (2009.01)

H 0 4 W 8/00 (2009.01)

【F I】

H 0 4 W 56/00 1 3 0

H 0 4 W 92/18

H 0 4 W 8/00 1 1 0

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 2 年 5 月 28 日 (2020.5.28)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

制御するネットワークインフラストラクチャノードを伴わない 3<sup>rd</sup> Generation Partnership Project (3GPP) ロングタームエボリューション (LTE) アーキテクチャにおいて、デバイス間の無線リンクを可能にするための第 1 のデバイスにおける方法であって、前記制御するネットワークインフラストラクチャノードにおいて、個々のデバイスは、他のデバイスと通信するためにフレーム長におけるタイムスロットを選択し、前記方法は、

第 2 のデバイスの存在信号が第 1 の期間にわたって受信されるかどうかを検出することであって、前記第 2 のデバイスの存在信号は、タイムスロット境界を有する、ことと、

前記第 2 のデバイスの存在信号が検出されない場合、前記第 1 のデバイスがタイムスロット境界を開始することと

を含み、

前記第 1 のデバイスがタイムスロット境界を開始することは、

選択されたタイムスロットで前記第 1 のデバイスの第 1 の存在信号を伝送することであって、前記第 1 の存在信号は、0 に設定されるシステムフレーム番号と、LTE の基地局によって使用される指数値とは異なる指数値を有する Zadoff-Chu ルートシーケンスとを含む、ことと、

前記第 1 の存在信号に対する確認応答が前記第 1 のデバイスによって受信される場合、前記第 1 のデバイスがタイムスロット境界を確立することであって、前記タイムスロット境界は、前記第 1 のデバイスが存在信号を周期的に伝送するために使用され、前記第 1 のデバイスが存在信号を周期的に伝送することは、確立されたタイムスロット境界への整合を可能にする、ことと

を含む、方法。

【請求項 2】

前記第 1 のデバイスは、後続のフレームの間に前記選択されたタイムスロットで前記第

1の存在信号を伝送し、1つのフレームは、整数個のタイムスロットを含む、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

タイムスロット持続時間は、予め決定されている、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記第1の期間は、所定の数の1つ以上のフレーム期間とランダム競合期間とを含むことにより、前記第2のデバイスの存在信号の検出が逃されないことを確実にする、請求項1に記載の方法。

【請求項5】

前記所定の数の1つ以上のフレーム期間は、整数個のタイムスロット持続時間を含む、請求項4に記載の方法。

【請求項6】

前記第2のデバイスの存在信号が検出される場合、前記第1のデバイス上のタイムスロット境界を前記第2のデバイスによって確立されたタイムスロット境界に整合させることと、

前記第2のデバイスによって確立された前記タイムスロット境界に整合させた後、前記第1のデバイスが存在信号を周期的に伝送するために使用されるタイムスロットを決定することと

をさらに含む、請求項1に記載の方法。

【請求項7】

前記タイムスロットを決定することは、

1つ以上の空きタイムスロットを検出することと、

空きタイムスロットを選択することと、

前記選択された空きタイムスロット上で前記第1の存在信号を伝送することと

を含む、請求項6に記載の方法。

【請求項8】

前記第1のデバイス以外の任意のデバイスの受信した存在信号に対する確認応答を送信することをさらに含む、請求項1に記載の方法。

【請求項9】

前記第1の存在信号は、1つ以上のシーケンスを含む、請求項1に記載の方法。

【請求項10】

前記第1の存在信号は、一次同期信号と二次同期信号とを含む、請求項9に記載の方法。

【請求項11】

前記一次同期信号は、前記タイムスロット境界を確立するために使用される、請求項10に記載の方法。

【請求項12】

制御するネットワークインフラストラクチャノードを伴わない3<sup>rd</sup> Generation Partnership Project (3GPP) ロングタームエボリューション (LTE) アーキテクチャにおいて、デバイス間の無線リンクを可能にするためのネットワーク内の各デバイスにおける方法であって、前記制御するネットワークインフラストラクチャノードにおいて、個々のデバイスは、他のデバイスと通信するためにフレーム長におけるタイムスロットを選択し、前記方法は、

チャネル上で存在信号をリッスンすることであって、前記存在信号は、LTEの基地局によって使用される指数値とは異なる指数値を有するZadoff-Chuルーツシーケンスを含み、前記存在信号は、選択されたタイムスロットで受信される、ことと、

前記存在信号が検出される場合、前記存在信号の少なくとも1つのシーケンスを利用することによって、前記デバイスのタイムスロット境界を前記存在信号に関連付けられているタイムスロット境界に整合させることと

を含む、方法。

## 【請求項 1 3】

前記存在信号は、一次同期信号と二次同期信号とを含む、請求項 1 2 に記載の方法。

## 【請求項 1 4】

前記一次同期信号は、デバイスのグループの識別に関連する、請求項 1 3 に記載の方法。

## 【請求項 1 5】

前記二次同期信号は、ランダムに選択された一時的なデバイス識別子に関連する、請求項 1 3 に記載の方法。

## 【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 8 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 8 8】

ブロック 8 2 2 で、または図 9 のメッセージ 9 1 0 に関する、P S のブロードキャストは、P S S および / または S S S に加えて、またはそれと同時に、システムフレーム番号 ( S F N ) を含んでもよい。S F N は、S F N が最初の伝送のために 0 に設定され得る、経過した発見期間 ( フレーム ) の数を追跡するように、ブロードキャストされてもよい。

## 【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 8 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 8 9】

T S 境界を確立した後、T S 境界を確立したデバイスは、全発見期間の最初のT S 上で P S および S F N を周期的にブロードキャストしてもよい。S F N は、各フレームに 1 だけインクリメントされてもよい。